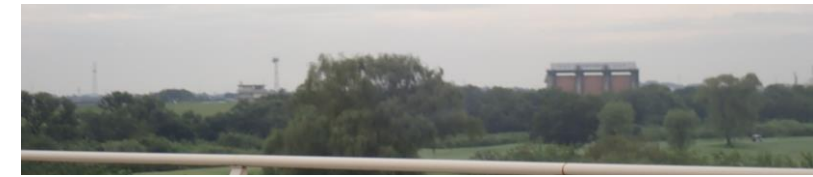


BRM1006宇都宮200km渡良瀬川

2018年度 AJ宇都宮主催最後のブルベは、初心者向けの200km 通称「きつくない山岳」です。さて、ホントにきつくないかどうかは皆さんの判断次第ですが、9/21にその試走に出かけましたので、本番出走の皆さんには、その参考としていただきたいと思います。



渡良瀬遊水地の水門を遠望する

試走当日は、埼玉県は曇り時々雨 群馬県と栃木県は晴れ時々曇り の予報。最高気温が20°C程度とのことでした。

つまり、BRMコースの南半分(前半)は曇り 運が悪いと小雨にやられるかも？

渡良瀬川を遡上する後半には少しは太陽も拝めるかな？ と予想。

気温は、最高標高の日足トンネル(919m)でも15°Cは下回らないのでは？と予想。

というわけで、雨装備なしの半袖短パンで出走しました。



Cue29 宗龍寺門前にトロピカルな参道が…

序盤 PC1までは田んぼの中の平坦路が延々と続き、気持ちよくスピードを稼げます。50kmを過ぎて古河の市街地を過ぎると、三国橋で渡良瀬遊水地の南側を通ります。残念ながら遊水地そのものを直視はできませんが、巨大な水門を遠望できます。



「ぶんぶく茶釜」で有名な分福地区も通ります

PC1~2間は足利から桐生方面の市街地を通るガマンの区間。信号に交通量の多い幹線道路などでストレスが溜まりますが、焦らずマイペースで安全走行を心がけてください。

その代わりに、市街地なだけに飲食店などが多く、グルメスポットを予めチェックしておいてもいいかもしれません。両毛線や渡良瀬渓谷鉄道など、鉄道好きに響くスポットも点在します。



謂れの気になる交差点



こっちは何となくわかる気が…

PC2を過ぎてもしばらく市街地が続きますが、7km少々で上桐原の左折を過ぎると、いよいよ本コースのハイライト 渡良瀬川遡上ルート of 国道122号です。両脇に聳える険しい山々が形作る深いV字谷と、その谷底に形成される渡良瀬川の河岸段丘、そこに点在する市街地、更にそれらをつなぐ渡良瀬渓谷鉄道が時折長閑なレール音を奏で、まさに山岳サイクリングの醍醐味を味わえます。一方、そこで初心者の方なら心配になる登り坂ですが、基本的に勾配は7~8%以下の緩斜面主体。焦って無理をせずマイペースで登れば無理なく攻略できるはず。



渡良瀬川沿線からいきなりスケールの大きな峡谷風景が出現

その他にもこの区間には観光資源も豊富で、巨大な草木ダムのコンクリート堰堤、その向こうの広大なダム湖、その湖畔にある星野富弘の美術館、その先の足尾銅山跡、廃校になった木造小学校、鉾山の鉾毒沈殿用の貯水池、などなど、退屈する暇ありません。

その渡良瀬川も源流近くなってきたあたりに、真新しいローソンが見えたら最後のPC3です。イートインもあり、休憩にも最適です。

が、実は、最適な休憩スポットはこの先にあります。PC3を出て4kmちょっと。そろそろ日足トンネルの最高点に近い ということろに神子内カフェ という、ちょっとオシャレなカフェがあります。敢えてPC3の補給を簡単に済ませて、ここで一息つくのもいいかもしれません。

更にもうひと頑張りです。このトンネルは、その中央付近に最高点がある両拝みの勾配となっているので、登りの前半を頑張って登るのがポイント。後半の下りは放っておいても勝手に転がってくれます。

むしろ要注意はそのあと細尾交差点までの下り。実はこの下りがこのコース最大の勾配。放っておいても60km/h以上出てしまいます。スピードの出しすぎに要注意です。

その後、清滝付近の市街地に入ると、足尾銅山にも関わりの深い古河電工の工場前を通過します。このコース、渡良瀬遊水地と足尾銅山という、日本初の公害事件に関わる土地をめぐる。足尾鉍毒事件と田中正三、日清・日露戦争と明治の日本史あたりを勉強してから走ると色々感慨深い旅行になるのではないかと思います。

更にここから日光市街を抜ける区間も要注意。急勾配の直滑降になりますが、交通量も観光客も多いので事故のないように慎重に下りましょう。

日光街道を右に逸れると、隠れた難所の峠越えになります。道幅狭く曲がりくねり、見通しも悪い林道ですので、慎重に通らしましょう。意外とクルマも通ります。

パインズゴルフクラブ脇の2つ目のピークを越えればゴールは間近。下り基調を一気に駆け下りゴールに向かしましょう。



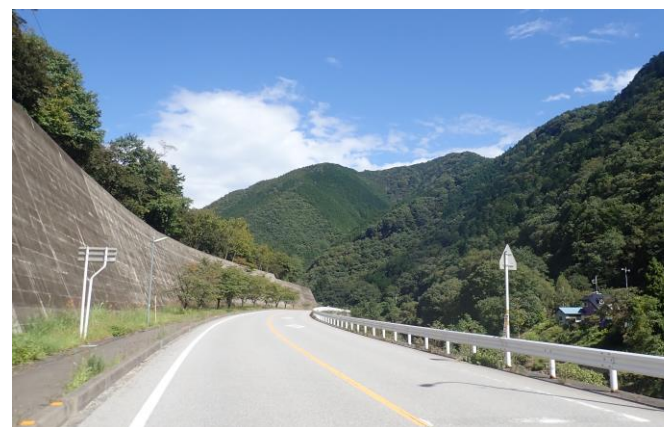
草木ダムは「星野富弘美術館」でも有名。



群馬名物
うどんの自動販売機



小学校の木造校舎



本番もこれくらい晴れるといいですね



運が良ければ渡良瀬渓谷鉄道の
トロッコ列車がみられるかも？



日光市内の「古河電工」工場

補足：注意事項

本番走行で想定される注意事項を紹介します。

Cue5「追分」 Y字路の右折ですので、奥の横断歩道まで直進したうえで歩行者信号に従って横断してください。(押しボタン利用してください)

Cue19「三国橋」併設されている歩道の走行が安全です。(徐行でお願いします)

77km地点あたりから3か所ほど道路工事がありました。
誘導員の方が自転車のことをよく理解してなくて右側歩道の走行を要求されますが、可能であれば車道を通してもらった方が安全です。
(工事区間の向こう側で左側車道に戻るケアは一切してくれません)
とはいえ、トラブルにならないよう、その場合は臨機応変に対応ください。

Cue35 左へ分岐の路面に金属板が埋め込まれて縦溝になっています。
昨年ここで滑って落車した方もいるので要注意です。

通り方が判らない方へのアドバイス：

- ・縦溝には、タイヤをできるだけ直角にして通る
(タイヤが平行になるほど滑りやすくなる)
- ・グリップの低い場所を通るときは、タイヤに横の力をかけない
→そのため、金属板の上で曲がらない 「曲がる」はそこにさしかかる前に終えておき、金属板の上では直進する
→金属板を通る瞬間に体重を抜く(極端な場合、そこでジャンプしてもいい。ジャンプしてる間は路面のグリップは関係ない)
を心がければスリップは避けられます。